

西南暖地におけるイタリアンライグラスの新しい話題

鹿児島県畜産試験場 飼料部

池 利 德

1 はじめに

今年3月ころから為替相場は円安傾向にあり、現在は輸入粗飼料の価格が値上がりしています。しかし、これまで円高などにより、かなり安く粗飼料が購入できましたので、自給粗飼料の割高感から安い購入粗飼料が増加し、一部の農家には購入飼料だけで牛を飼うという経営も出現しています。

このような状況のもとで、粗飼料生産に要求されることは、高品質で、しかも低コストで安定的に生産するということです。

低コスト生産については、いくつかの方策がありますが、そのうちの1つとして優良品種の選定があります。この優良品種の選定は高品質粗飼料生産にも結びつきますので、十分認識する必要があります。

トウモロコシの品種選定では、収量、耐病性、耐倒伏性などについて十分検討され、生産者の優良品種に対する認識は高いようです。しかし、イタリア

ンライグラスについては、それほどでもないようです。鹿児島県での奨励品種の流通割合をみると、

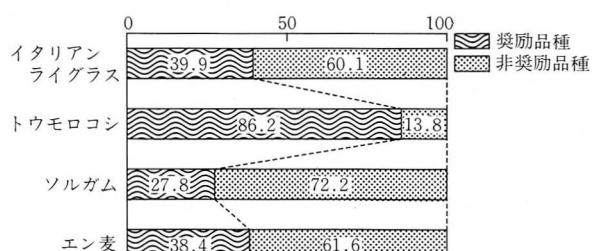


図1 県奨励品種の普及状況
(鹿児島県1989)

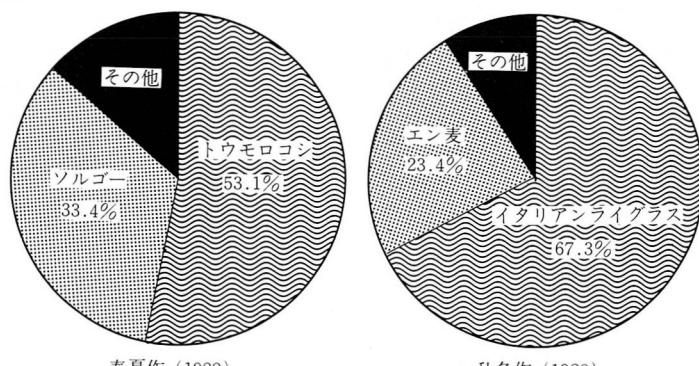


図2 鹿児島県における飼料作物作付面積割合



葉が上向きの完全直立型で倒伏に極強。サイレージ、乾草利用として大人気のイタリアンライグラス「タチワセ」

目 次

- 雪印種苗育成イタリアンライグラスの品種選定ガイド 表②
- 西南暖地におけるイタリアンライグラスの新しい話題 池田 利徳 1
- 雪印種苗育成イタリアンライグラスの特性と
上手な栽培利用法 近藤 聰 4
- 水田転換畑に向くカラードギニアグラスの
新品種「タミドリ」の特性と栽培利用 稲波 進 9
- 夏場の乳成分をクリアするための飼料給与からの対策 石田 聰 13
- 夏まき緑肥作物の品種と栽培のポイント—北海道— 橋爪 健 17
- スノークロップシリーズ「さやかざり」「リンダ」「ネリナ」 表③
- 緑肥用優良品種「キカラシ」「ヘイオーツ」 表④

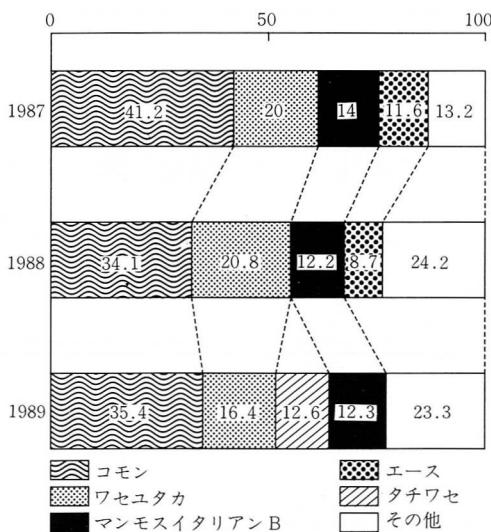


図3 飼料作物種子需要動向（イタリアンライグラス）
(畜産課調査)

イタリアンライグラスは39.9%でトウモロコシの86.2%と比較すると少ないと言えます（図1）。

イタリアンライグラスは本県の秋冬作用飼料作物の中で最も栽培面積の多い草種です（図2）。イタリアンライグラスの種子流通量の年次別の調査によると、コモンの割合は1987年に比べると減少傾向にありますが、まだ35%と大きな割合を占めています。しかし、目立った変化として、直立型のイタリアンライグラス（以下、直立型と略す）の栽培が増えています（図3）。

これは、今までのイタリアンライグラスは収量・耐病性などでは改良が進んできましたが、耐倒伏性では改良が進んでいませんでした。

このため、イタリアンライグラスの倒伏によるむれ防止は播種量・施肥量によって対応していました。しかし、むれ防止については新しく作出されたこの直立型という今までにない品種が生産者の悩みを解決してくれました。

直立型の品種ができたということで、栽培面で

も様々な工夫が試みられています。本誌36巻5号にありましたように、従来のイタリアンライグラスと直立型との混播により倒伏割合を少なくするということ、また、マメ科との混播により栄養収量を高めようという試みです。

そこで今回、本県の3地域で行いました実証試験結果を紹介します。

2 試験結果

鹿児島県での主な作付体系は図4のようにまとめることができます。今回は単収向上のための体系として、3作体系での実証試験を行いました。

1. A町での実証成績（表1, 2）

表1 作付概要

	1作目	2作目	3作目
草種	トウモロコシ	ギニアグラス	イタリアンライグラス (タチワセ+マンモスB)
期間	4.28-8.4	8.19-10.12	10.16-3.6

1) 調査結果

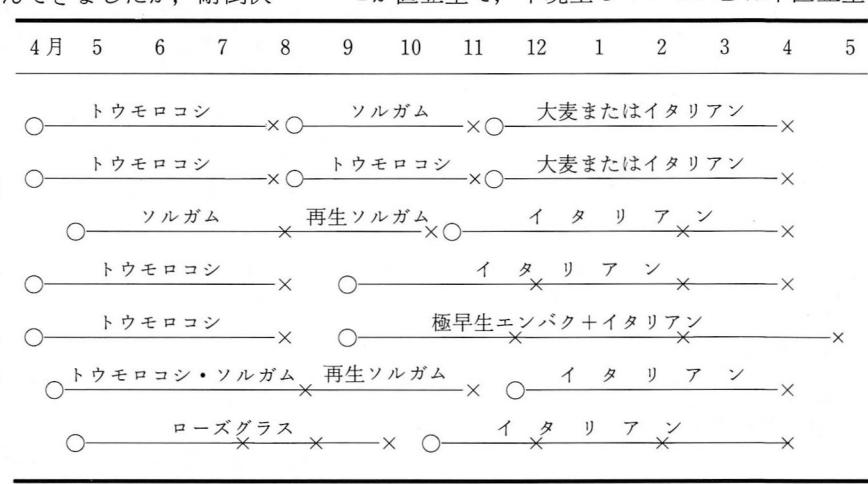
イタリアンライグラス 割取月日：3月6日

表2 調査成績

刈取り	草丈	生草収量	乾物率	乾物収量
	cm	kg	%	kg
H2.3.6	99.2	5,125	16.3	835
2回目	—	4月下旬予定	—	—

2) 生育状況

発芽率、初期生育とも良好で、早生種のタチワセが直立型で、中晩生のマンモスBは半直立型で



○：播種期、×：収穫期
図4 鹿児島県における主な作付体系

あり、草丈が伸びても下葉のむれによる枯れ上がりも少なかった。

3) 収量

1作目トウモロコシ (P 3358) 6,549 kg, 2作目ギニアグラス 4,150 kg, 3作目イタリアンは5,125 kg がありました。

2. B町での実証成績 (表3, 4)

表3 作付概要

	1作目	2作目	3作目
草種	トウモロコシ	ギニアグラス	イタリアンライグラス (タチワセ+コモンベッチ またはクリムソンクローバ)
期間	4.19-7.28	8.12-9.30	10.12-3.8

1) 調査結果

刈取月日：3月8日

表4 調査成績

品種	草丈	生草収量	乾物収量
タチワセ	101.1cm	5,214kg	829kg
+ コモンベッチ	78.4	75	9
タチワセ	107.4	4,930	784
+ クリムソンクローバ	43.6	40	5

2) 生育状況

直立型 2 kg とコモンベッチまたはクリムソンクローバ 1 kg の混播では、直立型が優占し、他のマメ科牧草を圧迫したことから、マメ科牧草の収量が極端に少なかったと考えられます。次年度からは直立型の播種量を 1.5 kg 程度にする必要があります。また、直立型の倒伏は見られませんでした。

3) 収量

1作目トウモロコシ (P 3358) の収量は 6,532 kg (乾物収量 1,156 kg), 2作目ギニアグラスは 3,570 kg (乾物収量 675 kg), 3作目イタリアンライグラスはコモンベッチとの混播が 5,289 kg (乾物収量 838 kg), クリムソンクローバとの混播が 4,970 kg (乾物収量 789 kg) でした。

3. C町での実証成績 (表5, 6)

表5 作付概要

	1作目	2作目	3作目
草種	トウモロコシ	ギニアグラス	イタリアンライグラス (タチワセ+極早生エンバク) (2kg)
期間	4.26-7.28	8.10-9.26	9.29-11.29, 4.1

1) 調査結果

表6 イタリアンライグラス調査成績

刈取り月日	生草収量
11. 29	3,100kg
4. 1	5,500

トウモロコシ (P 3286) が 6,400 kg, ギニアグラスは生育も順調でした。台風により倒伏したが、その後回復し、収量は生草収量 5,200 kg (乾物収量 1,040 kg), 直立型と極早生エンバクとの混播は2回刈り計で 8,600 kg でした。

4. D町での実証成績 (表7, 8, 9)

入来では、転作田での飼料作物の2作体系による単収向上について実証しました。

表7 作付概要

	1作目	2作目
草種	カラードギニアグラス (タミドリ)	イタリアンライグラス (タチワセ)
期間	5.30-7.25, 9.25	10.8-12.24, 3.14

1) 調査結果

表8 カラードギニア調査成績

調査日	7月25日	9月25日
草丈	128cm	126cm
生草収量	3,100kg	2,500kg

表9 イタリアンライグラス調査成績

調査日	12月24日	3月14日
草丈	46cm	58cm
生草収量	1,800kg	3,200kg

カラードギニアは台風により倒伏したが、2回刈取りができました。しかし、刈取り時の踏圧により再生がよくなかった。イタリアンライグラスは倒伏もなく生育良好であるので、4月に3回目を刈取りでき、生草収量で 7 t は可能と思われます。

3 おわりに

今年、当場でも一般ほ場の一部(3.2 ha)に直立型(1 ha), ワセニタカ(2.2 ha)を播種しました。生育の途中で気付いたことは、直立型品種の葉色が濃く、ワセニタカとの境がはっきりとしていたことでした。また、表10の平年雨量から分かりますように、3月下旬から4月中旬ころまで雨が多